

【図書紹介・資料紹介】『福岡県飯塚市庄内生活体験学校幼児の野外生活体験活動支援プログラムガイド』発行責任者 NP0法人体験教育研究会ドングリ

末寄, 雅美
西南女学院短期大学部保育科

<https://doi.org/10.15017/6796391>

出版情報：生活体験学習研究. 21, pp.91-91, 2021-07-26. The Japanese Society of Life Needs
Experience Learning
バージョン：
権利関係：



『福岡県飯塚市庄内生活体験学校 幼児の野外生活体験活動支援 プログラムガイド』

発行責任者 NPO 法人体験教育研究会ドングリ



本書は、飯塚市の庄内生活体験学校（以下、生活体験学校と略記）で行われた幼児向けの生活体験活動について、野外での生活体験活動を支援する手引き書となるようまとめられた資料である。

前半は、生活体験学校で行われてきた幼児向けプログラムについて、2017年からの経過とプログラムの展開の記録である。幼児向けプログラムを開始した背景として、運営上の必要として平日昼間の活用を図るために、また幼児を対象としたプログラムと指導法を確立し体験学習の効果を上げるためという二つの要因があったとのことである。

プログラムの内容について、生活体験学校で長年行われてきた小学生対象の活動をそのまま幼児に提供するのではなく、幼児向けかつ園毎の団体利用が可能になるよう工夫された方法や活動が紹介されている。例えば「ピザ焼き」では生地は予め作っておき幼児はトッピングの作業を行うこと、「落ち葉プール」を幼児専用プログラムとして始めたことなどである。中でも「石焼きイモ作り」は、幼児向けプロ

グラムとして非常に人気があり、活動を展開する過程で独自の石焼きイモ釜を作成したことも記されている。生活体験学校で行うものと、石焼きイモ釜を園に持ち込んで行うものがあり、今では生活体験学校でのサツマイモ栽培（苗植え・観察）と芋掘り体験とセットになって園児に提供されており、飯塚市内の多くの園がこれらのプログラムを活用していることが分かる。

後半は、それぞれの活動ごとの留意点として、生活体験学校で行われる「動物ふれあい体験」「ピザ焼き体験」「農業体験」「落ち葉プール」「石焼きイモ体験」「シイタケのコマ打ち体験」「ヒノキのそうめん流し体験」の七種の活動について保育者に留意を促すポイントがまとめられ、活動によっては各園でも応用して行えるよう手引き的にまとめられている。巻末は施設（バス）利用申請の記載例となっている。

生活体験学校では、この「プログラムガイド」だけでなく「幼児の野外の生活体験活動支援」の特製ポスター作成によって、飯塚市内の幼稚園・保育園の利用を促している。昨年からのコロナ禍の影響もあり、通学合宿などの宿泊型での体験活動の実施が困難な一方で、園毎に利用が可能な幼児向けプログラムは回数を重ねている。本書には記載されていないが、2020年度からは保育者向けの講座も行われ、指導者養成の取り組みも始まっている。生活体験学校で展開される幼児向けプログラムは、これまでの蓄積を踏まえた「他の野外活動とは違う生活の臭いの濃い内容」(正平、2019)¹⁾であり、体験が日常化することを目指して今後も充実していくものと思われる。

※この資料に関しては、飯塚市庄内生活体験学校（0948-82-3188）に直接お尋ねいただくか、HP サイト（<http://www.oks.or.jp/~taiken.sch/>）の「広報物」コーナーから PDF もしくは Word ファイルで入手することができます。

1) 正平辰男 (2019) : 「学会発足20年を振り返って ― 研究と実践、そして学んだこと」生活体験学習研究第19巻、p.22

[NPO 法人体験教育研究会ドングリ、2021年]
(西南女学院短期大学部保育科 末寄雅美)